

# 平成29年度 校区外部評価 自己評価表（最終まとめ）

学校名 品川区立東海中学校

## 【学校評価表の作成および評価に当たっての留意事項】

○各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。  
各学校で評価指標を設定してください。その際は、各学校の重点的な取組と関連させて評価指標を設定をしてください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。

○校区外部評価委員による外部評価委員会が開催される前に、学校は、自己評価結果（取り組みの状況や変化等）について、必ず説明をしてください。（校区外部評価委員は、その説明と実際に自分が見た学校の状況等により、評価します。）

## 【校区外部評価委員の皆様へ】

☆評価をする際には、実際に授業等を見た内容だけでなく、学校が説明した内容、聞き取った内容も十分に参考にしてください。従いまして、評価のために必要と思われる情報や資料につきましては、遠慮なく学校に御請求くださいますようお願いいたします。

## 評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方		○基礎学力を十分に身に付けさせるために知的好奇心を高めるとともに、「できる授業」「わかる授業」を確実に実施する。			
評価指標	上段:成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段:取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	・80%の生徒が定期考査、ワークテスト等で学校標準点を超えている。	B	・毎時、黒板に「本時の目標」を書き示している。 ・ペア活動を毎時間10分以上行っている。 ・その時間に活用するプリントと黒板の左上に「本日の目標」を毎時間提示している。 ・ランダムな指名をし、解答を求めることで、絶えず緊張感をもたせている。 ・選択肢が多い発問を用意することで全員が挙手や意思表示できる場を設けている。	・取組指標はしっかり実施できている。成果指標に結びつかどうかの検証を進められた。 ・明確な「ねらい」のせっていから、生徒が関われる指導の工夫が見られる。 ・主体的で対話的な深い学びを生み出すというアクティブラーニングを取り入れた授業を大いに期待したい。	・工夫ある教員の授業展開が増えた。 ・アクティブラーニングの展開に備えた教員の共通理解の場を設定する。 ・「明確なねらい」の設定が生徒の学習意欲の高まりに結びついていることを立証したい。
	・すべての教育活動に明確な「ねらい」の設定。 ・生徒同士が関わり合う授業展開の毎時間10分以上の設定。		・生徒の学力や、家庭教育への関心の度合いが二極化している。 ・発問を工夫して自信をもたせている。 ・意欲的な生徒には授業以外の学習の場を設けたり、適宜再テストを実施したりするなど、細やかな支援が行われてきている。 ・単に解答を出すだけではなく、なぜそのような解答が出たのかを説明している。 ・9年生を対象とした放課後学習(英語・数学)は生徒のやる気を喚起する効果があった。	・授業以外に、それぞれの生徒にあった対応をしていくことについて、すばらしいと感じる。モチベーションの格差がある中学生に個別対応していくことは、大変なことだと思うが、ぜひ継続して取り組んでいただきたい。 ・「意欲がある生徒に対して授業以外の学習の場を設けたり」とあるが、具体的にどのような場なのか明確にすべきである。	・「授業以外の学習の場」とは、放課後の補習や昼休みの質問コーナーである。今後も拡大すべきであると考えている。 ・「何をするのか」「何をやっているのか」「この時間で何をやったのか、何を理解したのか」ということが実感できる授業を構築していく。
	・生徒の学力向上の実感度85%を超えている。		・見通しがもて、筋道を考えて問題解決ができる授業の展開。 ・毎回の「できた・わかった」の視点での発問提示。	・書画カメラ、プロジェクターの活用が進み、65～70%の教科で常時活用した授業展開が見られるようになった。(技術科の半導体部品のハンダ付けでは100%利用) ・断片的な使用から電子教科書の活用にとどまりがちであった。長期的な計画に基づいた活用計画を立てる必要性を感じた。 ・以前はCDデッキを持っていったが、電子教科書を利用した授業展開である。	・ICTの活用が、使用「する・しない」の指標だけでなく、授業内容の改善に結び付けた。 ・学力定着のために、ICT活用を積極的に導入することは、時代に合った良い取組だと思う。 ・「後ろの席の生徒は見えにくい」とあるが、生徒一人一人にタブレット端末を貸し出すことはできないか?
②	・各教科での書画カメラ等を活用した授業展開が50%を超えている。	B	・9月からの実施を踏まえた各教科での教材開発。 ・先行校の視察と情報提供。 ・教員の活用意欲の向上。		

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目2 社会性・人間性の育成

本校の基本的な考え方		○規律と秩序ある生活態度を堅持する。 ○すべての学校行事に明確な「ねらい」を設定して、自主・自律の心を養う。				
評価指標	上段:成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明	
	下段:取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント		
①	学校行事への満足度が95%を超えている。	A	・運動会での充実感や感想文から90%は超えている。 ・上級生が範を示し、下級生がそれをまねぶ、習うという良い循環が結果としてできているが、行事のスタート時にそれを職員間で共有できるように、今年度の事後のまとめをしっかり行い、次年度に備えたい。 ・音楽祭では高い満足度が得られ、7年生は上級生を見て憧れの気持ちをもって頑張った。	・成果指標の管理において、レビューできる様な仕組みが創られていない。「～良かった。悪かった」ではなく、こういう取組をして数的効果はこうであったという基盤を作ってほしい。 ・上級生から、下級生へのつながりは、すばらしいことだと感じる。ぜひその文化を継承していただきたい。 ・学校だよりに記載された生徒の学校行事に参加しての感想文を読んで、その満足度を確認することができた。	・達成感や成就感を与えることは自主的・自立的な活動の推進にはとても大切なことと考えている。しかし、一面的な成果指標の表示であることは否めない。見て取れる表記に心掛ける。 ・さらに自立的な学校行事に進進する。	
	・それぞれの学校行事の目的の明確な伝達。 ・達成感が得られるための見通しとゴールイメージの伝達。		・多くの生徒「時と場をわきまえた態度、行動、礼儀、言葉づかいに関して90%以上の生徒が肯定的に評価し、行動化する。 ・挨拶の励行の強化 ・教師からの挨拶の発信。 ・校外行事を効果的な「わきまえ」の学習の場に設定。	・朝礼での私語はない。 ・70周年記念式典等の行事でも、日ごろの礼法を大切にしている取組が成果を示せた。 ・挨拶にまだまだムラがある。	・記念式典における生徒たちの態度、振る舞いに、とても感動した。日頃の指導、努力の成果であると感じる。 ・70周年記念式典に参加して、参列した生徒の式典に臨む真摯な態度に感銘を受けた。	・9年生は進路、7・8年生は職場訪問、職業体験へ向けて実践的・主体的な取組に発展させるよう意識付けしていく。 ・挨拶の仕方やタイミングにムラがあるので、来校者が好感をもっていただける挨拶の在り方を継続的に指導し、社会性を高めていく。
	・生徒会、学年、学級、班、部活動で、目的達成・課題改善の実践事例を1つ以上している。		・市民科の意識的・計画的な展開。 ・主体性を意識した担当教員の具体的な指導。	・日頃より、学級委員、班長が中心となって、学級・行事の取組を主体的に進めている。 ・生徒会役員は、東海Gグリーンレンジャーや、いじめの「0」宣言などに取り組んでいる。 ・市民科で、「いじめ」について考えさせ、あるべき人間関係について深めさせている。 ・生徒会からの提案で、定期考査前の自習室の確保や水筒の持ち込みの通年化が実現するなど、生徒会の自治能力が向上した。	・引き続き取組を定例化して、改善活動に取り組んでほしい。 ・生徒会の提案を、具現化していることはとても評価できる。また、当事者意識、自治意識の醸成につながりすばらしいことだと思う。 ・市民科の学習によって「いじめ防止」に対する意識が高まることを大いに期待する。	・「水筒の持ち込み」について生徒会からの申し入れがあり校長としてその妥当性から「持ち込み」を認めた事実があるなど、生徒の課題意識の高まりを見ている。 ・育てたい資質を明確にした市民科の単元構築に努めたい。

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

### 評価項目3 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方		○東海グループ(東海中・浅間台小・城南小・城南第二小)や保護者・地域との情報共有を軸に連携を強化し、小学校から進路意識を高めながら、様々な教育活動や地域行事等を、進路指導に密接に関連させ、「行きたい学校」、「なりたい自分」を目指させる。 ○地域行事への参加を通してボランティア精神の向上に励む。			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路実現率が90%を超えている。</li> <li>グループ小学校の入学回避率が10%を下回る。</li> <li>進路決定に対するまちの人による授業の展開。</li> <li>進路実現に向けての東海Gの連携強化。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度は卒業式前に高校入学率100%に到達した。今年度は「真にいきたい学校」への入学率100%を達成した。</li> <li>7年生の段階から卒業後の進路を考えるために学年全体で取り組んでいる。</li> <li>街の人との豊かな触れ合いを通して、大人への「憧れ」ももてる時間を設定したができていない。</li> <li>成果指標と取組指標がやや乖離していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教師アンケートや保護者アンケートを同一のものを使用しての評価の差異をあからさまにして議論したい。</li> <li>進路に関しては、7年生から取組を始めることは良いことだと思う。「真に行きたい学校」に進むために、3年間の計画性をもった生活が大切だと感じる。</li> <li>連携小学校との交流は東海グループの結束をさらに強固なものと思うので、大いに交流を深められたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明確な成果指標の設定に心掛ける。</li> <li>町の人との触れ合いが「大人への憧れ」となり、「こういう大人になりたい」等の意識が芽生える教育活動を設定し、「進路実現」に向けての動機付けに努める。</li> <li>「行ける学校」ではなく「行きたい学校」の選択にこだわらせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導・生活指導・進路指導・行事についての保護者の満足度が80%を超えている。</li> <li>学校便りによる学校紹介。</li> <li>掲示板活用の活動提示。</li> <li>ホームページの適切な更新。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校便りやホームページで適宜、適切に情報が更新されている。</li> <li>掲示板の写真掲示は、地元の方からの評判が高い。「来年は運動会を見に行きたい」と声をかけられた。</li> <li>学年だよりには写真を多く取り入れるなど、分かりやすい学年便りとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝える工夫を継続していただきたい。ホームページについては、見やすさの改善ができてと感じる。</li> <li>学校だより等の電子データによるホームページ上の配信(デジタル)もよいが、掲示板を使っている写真掲示(アナログ)も温かみがあって好感もてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校情報の適切な配信としての「学校便り」に努めている。また、適宜、適切なホームページの更新を展開している。今後も継続する。</li> <li>保護者や地域が求める情報の提供になるような「地域の声」の収集に努める。</li> <li>保護者の満足度を押し量られるシステム作りを模索する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の地域行事へのボランティア参加率50%を超える。</li> <li>生徒にボランティア活動の価値を再確認させる時間の確保。</li> <li>地域の教育力を最大限活用できるネットワークの構築。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク作りのために、教員がボランティアとして出て、地域と繋がっているのが、ネットワークの構築は良好であると思う。</li> <li>生徒は積極的にボランティア活動を実践しているが、クラスや学年によっては参加率が低いので声掛けをしていく。しかし、この時期は、学校見学や模試が土日実施が多いため9年生のボランティア参加には難しさがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア意識の高さを感じる。一方、ボランティア参加率が低い。学級での原因分析と対策を期待する。</li> <li>9年生への現実的な目標の設定が必要である。</li> <li>7～8年生の時にに行ったボランティア活動の体験は9年生の心に大切な記憶としてきつと残っていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア参加についての学年格差があることを払拭する動機づけを工夫する。</li> <li>来年から展開されるコミュニティスクールの学校支援地域本部を活用し、ボランティア活動の大切さを浸透させる。</li> </ul>

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

### 評価項目4 環境整備・美化

本校の基本的な考え方		○豊かな心の育成を目指し、「心を磨く」「心を育む」美化活動を展開する。 ○「より良い学習環境の確保」のための環境整備に努める。 ○東海グループの連携強化を図り、地域を巻き込んだ地域清掃活動を展開する。 【追記】己を磨く「ふき掃除(床磨きを目的とせず、黙々と床を磨き上げる所作の中で自己を見詰める時間)」の有効活用			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎内にゴミやほこり、チリなどが落ちていない。</li> <li>校舎周辺の花壇等が整備されている。</li> <li>美化コンクールの実施。</li> <li>生徒の美化意識を高める美化委員会活動。</li> <li>拭き掃除の計画的な展開。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会を中心に美化意識の向上に努めている。</li> <li>用務主事の丁寧なモップ掛けが生徒の美化意識を高める契機となっているようである。</li> <li>美化コンクールを確実に実施する。</li> <li>「拭きそうじ」については、しっかりした活動として定着し、生徒は真剣に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よくできてきている。</li> <li>「拭きそうじ」が定着し良い文化になっていると思う。</li> <li>「拭きそうじ」という試みはまさしく東海中学校の「特色ある教育活動」そのものだと思う。東海中学校の大切な伝統活動の一つとして定着し、生徒は真剣に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心の育成のための清掃活動は、やられるものではなく、「能動的な作業」であることを強く意識させていく。</li> <li>美化委員会の活動を強く可視化していく必要がある。</li> <li>東海中の「ふき掃除」のねらいをしっかりと押さえ、本校の伝統文化として根付かせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室や廊下の掲示物に対し、保護者が「良好」とする数値が80%を超える。</li> <li>教科掲示物の効果的な展示。</li> <li>通用門前の掲示板の活用と適時性のあるホームページの更新。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室や廊下の掲示物については、担当教員が計画的に実施している(再掲)。</li> <li>保護者からの情報(数値)収集の在り方が不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見やす掲示になっており、とても良い。</li> <li>教室や廊下に掲示されている生徒の作品には心が和まされる。</li> <li>保護者アンケートを実施すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室の掲示物等における環境整備についての項目をアンケートの項目に位置付ける。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリーンレンジャーを中心とした地域清掃活動が地域に定着している。</li> <li>生徒にボランティア活動の価値を再確認させる時間の確保。</li> <li>教職員による清掃が行き届いた生徒昇降口の維持。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>用務主事の丁寧なモップ掛けが生徒の美化意識を高める契機となっているようである。</li> <li>美化コンクールを確実に実施した(再掲)。</li> <li>クリーンレンジャーでは105名の生徒の参加を見た。生徒会が東海Gの児童会と共に呼びかけているので、生徒も目的意識をもって参加しやすいものになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会が中心となって行っているところがすばらしい。</li> <li>用務主事の方々の活動が校内外をきれいにすることに留まらず、生徒の美化意識の向上という大切な教育になっていることは大変素晴らしいことだと思う。</li> <li>引き続き頑張ってもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の美化に貢献できる喜びを実感でき、地域からの称賛を得られるような活動を模索していく。</li> <li>クリーンレンジャーは良き伝統であるため、東海Gとしての連携を深めつつ、継続していく。</li> </ul>

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目5 いじめ防止に関する取組

本校の基本的な考え方		<p>○全校生徒一人一人に関する情報を全教職員が常に共有するとともに、生徒一人一人に対する観察眼をしっかりと身に付け、いじめは絶対に起こさせないように努める。</p> <p>○全教育活動をとおして心の教育を充実させるとともに、思いやりあふれる学級・学年の経営に努める。</p>			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめは重大な人権侵害であることを理解し、いじめゼロが徹底される。</li> <li>毎学期のアンケート実施。</li> <li>教員の情報共有の深化。</li> <li>市民科の意識的・計画的展開。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ」をはじめとして生徒の情報について教員間で共有している。</li> <li>土曜授業時にはいじめ根絶バッジを着用させ、いじめ「0」宣言の体現化を強く意識できる講話を発信している。</li> <li>市民科で、「いじめ」について考えさせ、あるべき人間関係についての理解を深めさせている。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃の活動から、人権意識の高まりにつながっていると感じる。</li> <li>「いじめ根絶バッジ」の作成や着用は素晴らしいアイデアである。学習活動の中で効果的に活用して「いじめ防止」に繋げてほしい。</li> <li>いじめ撲滅にはゴールはない。1つでもいじめがあれば努力は台無しになる。小さいいじめの芽をしっかりと摘んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ撲滅にはゴールはなく、小さいいじめの芽をしっかりと摘むよう、生徒と教師の信頼関係を強め、何でも相談できる関係性の構築に励む。</li> <li>人権侵害について考える効果的な市民科の単元を構築する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめが明らかになった場合には教職員が組織的に対応し、解決に向けて最善の努力をしている。</li> <li>変化を見逃さない情報共有の場を設置。</li> <li>適切な関係機関との連携・連絡・相談の実施。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員で生徒の情報共有が徹底されている。</li> <li>いじめだけでなく、いじめの発端となるような生徒同士の行き違いやいざこざなど、小さな問題も見逃さない意識と連携を大切にしている。</li> <li>生活指導部では、各学年と共に、養護教諭やスクールカウンセラーが参加し、変化を見逃さない情報共有の場としている。職員連絡会はもとより、朝の打合せでの情報共有を大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム学校として、取り組める体制をつくらせているところが良い。</li> <li>時には保護者の代表の方にも参加をお願いして、拡大生活指導部会の開催も考えてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の情報共有の場をしっかりと確保し続け、迅速かつ適切に対応できる組織を継続する。</li> <li>地域からの声もしっかりと拾える地域との関係性を強化する。</li> <li>教員の敏感な関係を高める努力を惜しまない。</li> <li>保護者代表者が参加する拡大生活指導部会の開催も構築する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学校生活に対する安心度が90%を超える。</li> <li>人権感覚豊かな教職員の言動。</li> <li>ダイアログ実施の未然防止。</li> <li>いじめに特化した市民科展開。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>区がいじめアンケートの結果から、90%の生徒が安心して居ることは明らかである。</li> <li>すべての生徒が安心して登校できるよう、多くの生徒に声をかけて話をするようにしている。</li> <li>面談の確実なる実施(ダイアログ)で、生徒のみならず保護者の思いも受け止めるよう心掛けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話を大事にすることを引き続き継続してほしい。</li> <li>「ダイアログ実施による未然防止」とは具体的にどのような未然防止策なのか。具体的に示すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何よりも生徒と教員の信頼関係を深め、生徒の変化を敏感に感じ取る教員集団であり続ける。</li> <li>生徒の毎日の変化を見て取る対話の瞬間を多くもつ。</li> </ul>

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目6 学校独自の特色ある教育活動

本校の基本的な考え方		<p>○すべての教育活動に具体的な目標を設定し、「時と場をわきまえた、態度、行動、礼儀言葉遣いの実践」を励行し、卒業時までには誰からも認められる本校生徒の「15歳のあるべき姿」を確立する。</p> <p>○「確かな学力と豊かな心」は「健康と体力」が支えていることを強く意識させ、「健康と体力」に対し、生徒が自ら向上させようとする学習内容や学習環境を構築する。</p>			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒主体の学校行事が運営されている。</li> <li>生徒会、実行委員会による運動会、音楽祭の運営。</li> <li>運動の合理的実践を通じた生涯体育の重要性の理解。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの行事の実行委員会を中心に活動に取り組んでいる。</li> <li>運動会では、教員から生徒に向けて期待や理想とする姿を提示するとともに、生徒自身によって「目標」を設定し、リーダーシップ・フォロアシップの姿勢を上級生から下級生へ伝えることができた。</li> <li>生徒の音楽祭実行委員会は主体的によく働いていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽祭での生徒主体の取組は、生徒の自信につながりとても良いと思う。「教員側の準備不足」については、原因を究明し改善につなげていただきたい。</li> <li>生徒の主体性を育成することは「15歳のあるべき姿のひとつ」でもあると思う。「生徒に目標を決めさせ」、「あるべき姿を提示する。」という各行事を通しての具体的な取組に大いに期待する。</li> <li>よくできている。引き続き頑張してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の達成感や成就感を高める学校行事の運営に心掛ける。そのために、「どうしたいか」「ならばどうするか」と言う協議を時間を惜しまず係生徒と展開する。</li> <li>主体的な生徒の育成をねらった、それぞれの行事実施までの道筋を工夫し共有する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動精神が発揮されている。</li> <li>ポンプ隊として地域の師範として活動している。</li> <li>地域祭の参加4回70名以上。</li> <li>地域行事参加4回100名以上。</li> <li>ポンプ隊練習の強化。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>10名以上の生徒がポンプ隊に所属した。区一斉防災訓練時にポンプ隊公開訓練を実施した。</li> <li>生徒は積極的にボランティア活動を実践しているが、クラスや学年によっては参加率が低いので声掛けをしていく。</li> <li>今後のボランティア活動についての意味と価値を生徒に伝え続け、参加者の拡大に励む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア意識の高さを感じる。</li> <li>ポンプ隊という活動を通してボランティア活動がさらに盛んになるように願っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかりとした組織を有するポンプ隊を結成する。</li> <li>地域消防団との連携を深める。</li> <li>地域消防団を招聘し、講習会を開催する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーアクティブスクールの指定校として生徒の体力が向上している。</li> <li>各教科授業前の運動の展開。</li> <li>筋力を高めるための毎回の体育の時間の効果的な筋力トレーニングの導入。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝のSU1を使って、各学年の工夫により、全校体制で体力向上に向けて、生徒は意欲的に取り組んでいる。</li> <li>現在、7年生ではジョギングを中心に、8年生・9年生は縄跳び「8の字集団とび」が中心。</li> <li>学校独自にDVDを作成し、全校でチューブトレーニングを実施している。</li> <li>体力テストの結果は昨年度よりも全体的に向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チューブトレーニングなど、新たなチャレンジについて、すばらしいと感じる。</li> <li>アイソメトリックトレーニングなどスーパーアクティブスクール指定校ならではのユニークな取組に期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度の発表に向けて、研究を一層推進する。</li> </ul>

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない



**【別紙】 校区外部評価委員より（その他、お気付きの点などがありましたら自由にお書きください。）**

**【ご意見】**

- (1) 生徒発信の提案、課題などを吸い上げて生徒自身の自主性を引く出すことにチャレンジしていただきたい。
- (2) 教師、生徒に求めている評価項目1～5の多面性をしっかりと腹落ちしてもらうために、指標や図示による工夫に努めて欲しい。
- (3) 各評価指標には大変だと思いますが、期初、期末だけでなく期中に計測(メジャー)出来るものを選別していただきたいと思います。これによって、期中の展開が可能になります。
- (4) 校長、副校長と教師間のベクトル合わせ、教師のアクションプランへの反映など、学校のマネージメントに生かし、教師のベクトルがバッチリ合っている環境を目指していただきたい。